

<資 料>

市場経済と計画経済（2）

中 村 平 八

[解説]

はじめに

市場経済と計画経済は、一般に、対立的制度、対立的概念だとみなされてきた。すなわち、このように考えるひとつとは、資本主義と市場経済とを等置して資本主義的市場経済、ついで社会主義と計画経済とを等置して社会主義的計画経済という対立的概念を創造する。また実態的には、欧米日など西側の経済体制を資本主義的市場経済、ついでソ連・東欧・中国など東側の経済体制を社会主義的計画経済と規定し、両者を対立する体制とみなすのである。

1989年から91年にかけてのソ連・東欧における共産党開発独裁体制の崩壊、崩壊後のこれらの国の資本主義的市場経済への移行志向と経済の混乱、さらに今日の中国の市場経済志向という状況を目の前にして、ひとつとは、資本主義＝市場経済の勝利、社会主義＝計画経済の敗北を主張している。しかもこのような通説的理解は、既存の概念を前提にするかぎり、誤りでない。

仮説の提起

しかし、このような理解には疑問がある。上記の多数説を批判的に吟味するならば、別の理解が可能となる。そのさいまず第一に問題になるのは、資本主義＝市場経済、社会主義＝計画経済という等式である。この等式には疑義がある。およそ社会的な生産および再生産を維持するためには、生産諸資源（労働力と生産手段）を諸経済単位に配分しなければならない。資源の配分方法には、基本的に、市場原理にもとづく配分と計画原理にもとづく配分という二つだけがある。市場による配分方法には市場（商品）経済、計画による配分方法には計画

(指令) 経済が対応する。なおいわゆる「贈与」および「互酬」による資源配分については、その社会経済的な意義を考え、考察外とした。

われわれは、人類社会のほぼすべての発展段階において、市場(商品)経済および計画(指令)経済が併存した、という仮説から出発する。従来の学説では、市場(商品)経済は原始社会の解体期以降の社会(社会主義、共産主義社会を除く)、計画(指令)経済は社会主義以降の社会にのみ存在する。しかし、われわれの仮説ではそうではない。したがって、所与の社会における市場(商品)経済および計画(指令)経済の形態と内容、役割、これを総括的に規定する政治権力(上部構造)の性格等について、再審する必要がある。

まず市場(商品)経済であるが、それは、通説でいう原始社会は別として、人類社会のすべての時代に、姿を変えて常に存在した経済形態である。もちろん、市場(商品)経済の形態と内容、役割は、不変・同一でなく、単純なものから複雑なものへと進化した。とりわけ前近代社会と近現代社会とでは、大きな違いがあった。他方、計画経済(前近代の指令経済を含む)であるが、これもまた通説でいう原始社会は例外として、広義の共産主義社会はもちろんのこと、すべての社会に存在する経済形態である。市場(商品)経済の場合と同じく、計画(指令)経済の形態と内容、役割は、単純なものから複雑なものへと姿態変化をとげている。市場経済について考察する前に、まず商品経済について、私論を述べてみたい。

商品および商品生産(商品経済)

まず商品および商品生産について考えてみよう。商品とは何か。経済学では、「商品とは、交換を目的として生産される労働生産物であり、価値と使用価値という二つの要因の統一物である」と定義される。別言すれば商品は、①その物が労働生産物であること、②社会的使用価値をもつこと、③交換価値をもち、④かつ譲渡されること、という四つの条件を充たしていなければならない。

では商品生産(商品経済)とは何か。商品生産は、個別の生産者が、自分の欲望のみを満足させるためでなく、他人の欲望を満足させるために生産し、個別の生産者相互間の結合が、各自の生産物の交換を通して行われような生産関係

のことである。商品生産の前提は、社会的分業と生産手段の個別的所有（私的所有でないことに注意せよ）とである。しかも個別の生産者は、特定の生産物の生産に専門化しているので、その多様な欲望を充たすためには、市場で生産物を商品として交換（売買）することが必要である。そのための生産が商品生産であり、商品生産および商品交換が行われる経済が商品経済である。

商品生産（商品経済）の種類

広義の商品生産には、小商品生産（単純商品生産）および商品生産（複雑商品生産）という二つが存在する。小商品生産とは、小規模な生産手段の所有者（小生産者）が、その家族の労働によって商品を生産しているような商品生産である。小生産者は、歴史的にみて多様であり、小農民・狩猟民・漁民・手工業者および小商人などがそれである。商品生産（狭義）とは、大規模な生産手段の所有者（大生産者）が、多数の労働者を雇用し、その労働力を使用して商品を生産しているような商品生産である。大生産者は、資本家および国家である。

狭義の商品生産（複雑商品生産）には、資本家的商品生産および国家的商品生産という二つがある。前者は、生産手段の所有者が資本家であり、後者は生産手段の所有者が国家である。両者とも経済活動の主体である。これまで通説では、資本家的商品生産だけが商品生産だと考えられてきた。正統派の政治経済学者は、旧ソ連などで主張された「社会主義的商品生産」——その本質は「国家的商品生産」——論を、欠陥理論だとみなしていた。また資本主義的な国家的商品生産（国家ウクライド）の存在を認めなかった。したがって、狭義の商品生産には、資本家的商品生産のほかに国家的商品生産が存在するという説は新説であり、若干の説明を必要とする。

ソ連および中国の国家的商品生産

1917年のロシア十月革命によって誕生したソヴェト国家は、ほぼすべての資源——労働力と生産手段（労働手段と労働対象、具体的には機械・原材料、道具・施設や土地など労働力以外の生産要素）とを国家の手に集中・集積し、巨大国有企業を成立させ、労働者を雇用し、その労働力を使用して、国家的商品生産を行った。国家は、上からの国民経済計画にもとづき、官僚機構を通じて、資源配分

を行い、経済活動を制御した。この国家的商品生産（集権的計画経済）は、ソ連型社会主義とよばれ、第二次世界大戦後、東欧・中国などにも導入された。ソ連型の国家的商品生産は、恣意的な資源配分や経済制御の失敗によって破綻し、1991年に崩壊した。

他方、今日の中国は、1979年以降の試行錯誤により、ソ連型の国家的商品生産（集権的計画経済）を捨て、中国型の国家的商品生産を模索し、最近（1992年以後）では、目標モデルを「社会主義的市場経済」と定めるに至った。すなわち、国家が生産手段を所有し、労働者を雇用して生産活動を行う国家的商品生産（国家ウクライド）のほかに、新たに資本家的商品生産（資本主義ウクライド）や小商品生産ウクライドの展開を積極的に奨励し、同時に、国家による恣意的な資源配分や経済制御の弊害を除去するとともに、国家によるマクロ制御・調整のもとで、市場メカニズムを利用して、資源配分を行い、生産活動を行う方向をめざしている。国家的商品生産（国家ウクライド）——1978年まで絶対的存在として国民経済を支配してきた——に関しても、市場メカニズムを導入して国有企業を改革し、このウクライドの再生・発展を図ろうとしている。

商品生産（商品経済）の歴史

商品生産の歴史をみると、まず最初に登場したのは小商品生産である。通説によれば、小商品生産は、人類史の始源に位置する原始社会（家父長制的共同体的現物経済）の解体を決定的に促進した。小商品生産ウクライドは、引きつづき前近代社会で発達し、近現代社会においても存続し、一定の積極的もしくは消極的役割を果たしている。商品生産（資本家的商品生産と国家的商品生産）は、前近代社会の末期に、まず資本家的商品生産（資本主義ウクライド）として誕生し、この社会の解体を促し、前近代社会と近代社会とを分かつ役割を果たした。資本家的商品生産は支配的ウクライドに成長し、人間の労働力すらも商品化することで、近代社会を全面的な商品経済社会に変えた。現代社会では、ほぼすべての財貨（サービスを含む）が商品として生産・交換・消費されている。20世紀にはいると、国家の経済的役割が高まり、資本家的商品生産のほかに、新たなウクライドとしての国家的商品生産が登場し、発展している。

ところで原始社会の経済は、通説によれば、非商品経済・非交換経済したがって非市場経済だとされている。原始経済は、生産力水準が低かったため、剰余生産物も乏しく、生産物の交換は行われず、商品および市場は存在しなかったと理解されているのである。しかし、近年の中国や日本における原始時代研究の発展により、原始社会に生産物交換が広範に存在した可能性が指摘されている。「原始経済＝非商品経済」説は、修正をせまられ、原始的な小商品経済の存在が確認される可能性がある。

市場経済と市場メカニズム

市場とは、商品＝財貨の売買が行われる場、制度、機能、機構である。市場で売買される有形財および無形財（サービス）は、商品である。歴史的にも論理的にも、商品と市場は一体不可分である。市場経済とは、商品の生産・分配・流通という経済の全局面が、主として市場の価格メカニズムによって調整されるような社会経済のことである。いかなる社会においても、社会的生産を維持継続するためには、労働力と生産手段、つまり生産に必要な諸資源を、それぞれの生産部門に、合理的かつ適正に配分しなくてはならない。資源の最適配分は、商品生産のもとでは、価値法則の作用にもとづく市場における商品の価格の変動を通して行われる。別言すれば、価格は市場の需給関係を反映して変動し、個別の経済主体は、市場が発信するシグナルに反応して、生産や消費を増減する。価格の伸縮性は、需給調節および資源の最適配分のための不可欠の条件である。このような作用をもつ市場（交換行為の総体）の機能および機構が、市場メカニズムである。

市場メカニズムが完全に作用するための前提は、第一に、市場が多数の売手および買手から構成されていて、経済主体は価格を恣意的に操作できないこと（純粋競争の想定）、第二に、資源の移動が完全に弾力的であること（完全市場の想定）の二つである。しかし、この二つの条件は、現代の資本主義的市場経済や社会主義的市場経済においても、完全に満たされてはいない。だからこそ、不完全競争の経済学、独占の経済学、公共経済学、制度の経済学が必要となる。また市場メカニズム（市場による資源配分機構）と小商品生産、資本家的商品生産、

とくに国家的商品生産との関係を、研究する必要がある。

計画経済

経済学の範疇としての計画経済は、成熟していない。現在、次のような定義が提示されている。計画経済とは、「単一の国家計画の作成とその遂行という形で経済発展がおこなわれ、財貨の生産・分配・流通が人間の意識的管理のもとにおかれている国民経済のことをいう。……生産手段の社会化によって、つまり生産手段が自己増殖的価値（資本）であることをやめることによって初めて、〈何を、どれだけ、いかにして〉生産するかを、社会が意識的に決定することが〔可能になる〕。……したがって、全国民経済的規模での計画経済は必ず社会主義的生産関係を前提するし、社会主義経済は常に計画経済である」（岡稔「計画経済」大阪市立大学経済研究所編集『経済学辞典』第3版、岩波書店、1992年）。

次のような定義もある。計画経済は、「生産手段の共同的所有と自由で自覚的な結合をなしとげた生産者たちの共同的労働にもとづいて、経済過程が共同的に規制され、計画化される〔経済である〕。この計画化によって、社会的欲望におうじた物的資源と人的資源の合理的な配分とその効率的な利用ができるようになり、生産の部門間・部門内のつりあいをたもつことができるようになる。全社会的な規模での計画経済は社会主義のもとではじめて可能となるものであり、またこのような計画化をつうじてのみ社会主義の基本的経済法則が実現され、社会の全成員の完全な福祉と自由な全面的発展ということがもたらされていく」（芦田文夫「社会主義計画経済」『大月 経済学辞典』大月書店、1979年）。

上記の二つ定義にほぼ共通の概念は、①「計画」と「計画化」、②「財貨の生産・分配・流通の意識的管理」と「経済過程の共同的規制」、③「生産手段の社会化」と「生産手段の共同的所有」、④「全国民経済的規模での計画経済」と「全社会的規模での計画経済」である。岡稔氏も芦田文夫氏も、マルクスの著作の関連記述を念頭におきつつ、ソ連型社会主義の現実および非現実を考慮して、上記の定義を試みたと思われる。

われわれは、④を除き①②③はすべて、原始社会およびそれ以後の社会、すなわちすべての社会に存在したと考える。原始人にも食糧入手「計画」があっ

た。彼らは、労働支出を節約するために、労働対象としての自然を観察し、その運動法則を発見し、〈何を、どれだけ、いかに〉採集・狩猟・漁労すべきかを事前に意識的に「計画」した。乱獲・乱取による動植物＝食糧の絶滅を避けるために、「経済過程の意識的管理、共同的規制」を行った可能性が大きい。採集地・猟場・漁場などの「生産手段」は、原始共同体の「共同所有」であった。使用する道具も簡単なものであり、非所有か「共同所有」であった。われわれの推測では、労働力の配分も「計画的」であった。かりに原始人類の経済活動に「計画」も「意識的管理」も「共同所有」もなかったとしたら、生物としてはきわめて弱い人類は、他の生物との生存競争に敗れ、滅亡していたであろう。

また次の事例は、古代社会における国家ウクライドの存在、それにとまなう「計画」と「公共財」の存在を証明している。中国の秦の始皇帝（前259－前210）は、匈奴から国土を守るため、万里の長城を修築・連結した。この一大土木工事業は、きわめて多くの労働力や資材を必要としたが、それらの調達や配分は「計画的」であったと推定される。万里の長城は、現代経済学の用語で言えば、まぎれもなく国家ウクライドが生産した国防財、すなわち「公共財」である。また隋（581－618）の時代、江南と華北を結ぶ大運河が建設された。これもまた一種の社会的共通資本、すなわち「公共財」であり、その建設にさいして膨大な労働力と資材を必要としたが、その生産・分配・消費は「計画的」であった。

今日的に言えば、これらの事例はある特定の大プロジェクトの「計画化」であって、国民経済の「計画化」ではない。しかし近代以前には、国民経済も国民国家も存在していなかったのだから、このことをもって「計画化」一般の不在を主張することはできない。なぜなら、前近代の皇帝・王・領主の支配する国家が、国家ウクライドを所有し、帝国や領邦の経済の「計画化」を試み、「生産・分配・流通の意識的管理」で、顕著な成果をあげた事例が多いからである。皇帝・王・領主による農業や手工業の振興事例は、近代社会に近づけば近づくほど多くなる。また近代以前にも、産業や防衛のための「公共財」が生産され、民衆によって受益された。これらの「公共財」の生産は、多くの場合強制的労働

働による「共同生産」であったが、自主的「共同生産」であった事例も多い。前近代の「公共財」も、実質的には「共同所有」であり、「共同消費」されたのである。

計画的資源配分と商品生産一般、とくに「公共財」を生産する国家的商品生産（国家ウクライド）との関係は、未開拓の研究分野であり、今後の研究がまたれる。人類社会の歴史を貫く経済的進歩とは、究極的には財貨の獲得に必要な社会的労働支出を不断に節約し、社会的労働生産性を不断に向上させることである。「公共財」はそれを助ける。社会的労働支出節約の法則は、人類社会の共通法則であり、近代以前のすべての社会および近現代社会を貫いているだけでなく、未来社会においても作用する。

現代資本主義と現代社会主義の問題点

現代資本主義の支配的ウクライドは、資本家的商品生産（資本主義ウクライド）である。資本家的商品生産の中核には資本家的独占・寡占（巨大企業）が位置し、価格を恣意的に操作して（独占価格，寡占価格），市場メカニズムを歪めており，その弊害は少なくない。また国家的商品生産（国家ウクライド）——いわゆる政府部門，公共経済部門——が存在し，政府のマクロ経済制御も実施されている。それらはいかなる役割を果たしているのか。資本家的独占・寡占（巨大企業）を補強する役割を果たしている，との疑いがある。したがって，国家ウクライドの経済活動の公共性に関しては，厳密に吟味する必要がある。資本主義ウクライドや国家ウクライドに対する国民の側からの民主的統制についても，研究してみる必要がある。

現代社会主義には，支配的ウクライドとして国家的商品生産（国家ウクライド）が存在したが／するが，このウクライドの公共性に関しても，同じく厳密に吟味してみる必要がある。正しい結論を得るためには，旧ソ連や現代中国の国家ウクライドと，それを構成した／する企業，官僚機構等について，実証研究を重ねなければならない。現代中国に存在する資本家的商品生産（資本主義ウクライド）についても，不明な点が多い。社会主義を名のる国家であるならば，すべからく国民が必要とする情報を公開し，国民の批判を受け，国民に責任を負

わなければならない。国民は、国家ウクライドおよび資本主義ウクライドに対して民主的統制を行う必要がある。共産党国家のマクロ経済制御についても、その「公共性」を吟味してみる必要がある。理論的には、資本主義国の国家ウクライドと社会主義国の国家ウクライドとの共質性と異質性を明らかにする必要がある。これらの重要問題については、稿を改めて考察してみたい。

われわれの主張は、主要な論点で通説と異なる少数説・異説であり、読者は大いに戸惑うであろう。この解説論文を読み進み、筆者の言わんとしていることを理解していただきたい。また西側経済学やマルク派経済学の市場経済（商品経済）と計画経済（指令経済）に関する通説を念頭におきつつ、以下で紹介する中国の学者の「社会主義的市場経済」論をお読みいただきたい。

日山編『著名学者の社会主義的市場経済論』（中国・人民出版社，1992年）

- 1 薛暮橋 社会主義的市場経済の諸問題
- 2 馬 洪 社会主義的市場経済を發展させ、計画と市場とが結合する新制度を完全なものにしよう
- 3 龔育之 市場経済の問題と思想路線の問題（以上第32巻4号）
- 4 吳敬璉 社会主義的市場経済の歴史的沿革と現実的意義
- 5 劉国光 計画と市場に関する若干の問題（以上第33巻1号）
- 6 林子力 現代市場経済と現代社会主義
- 7 董輔初 市場と社会主義的市場経済
- 8 胡 平 商業改革と社会主義的市場経済
- 9 柳随年 流通改革を突出させ、経済の市場化の進展過程を全力で推進しよう
- 10 呂日周 社会主義的市場経済と農村改革
- 11 趙延年 社会主義的市場経済を全力で發展させ、各民族の共同繁栄を徐々に実現しよう

- 12 高尚全 社会主義的市場経済の新制度をできるだけ早く建設しよう
- 13 厉以寧 社会主義的市場経済のミクロ的基礎
- 14 呉振坤 わが国の社会主義的市場経済の条件の下で対外開放を全力で推進しよう
- 15 江春澤 市場経済の必然性と政府の役割の必要性
- 16 蕭灼基 社会主義的市場経済に関する若干の認識問題
- 17 賈春峰 社会主義的市場経済の発展と社会主義的精神文明の建設とを有機的に結合しよう